

奈良町家

様式と知恵

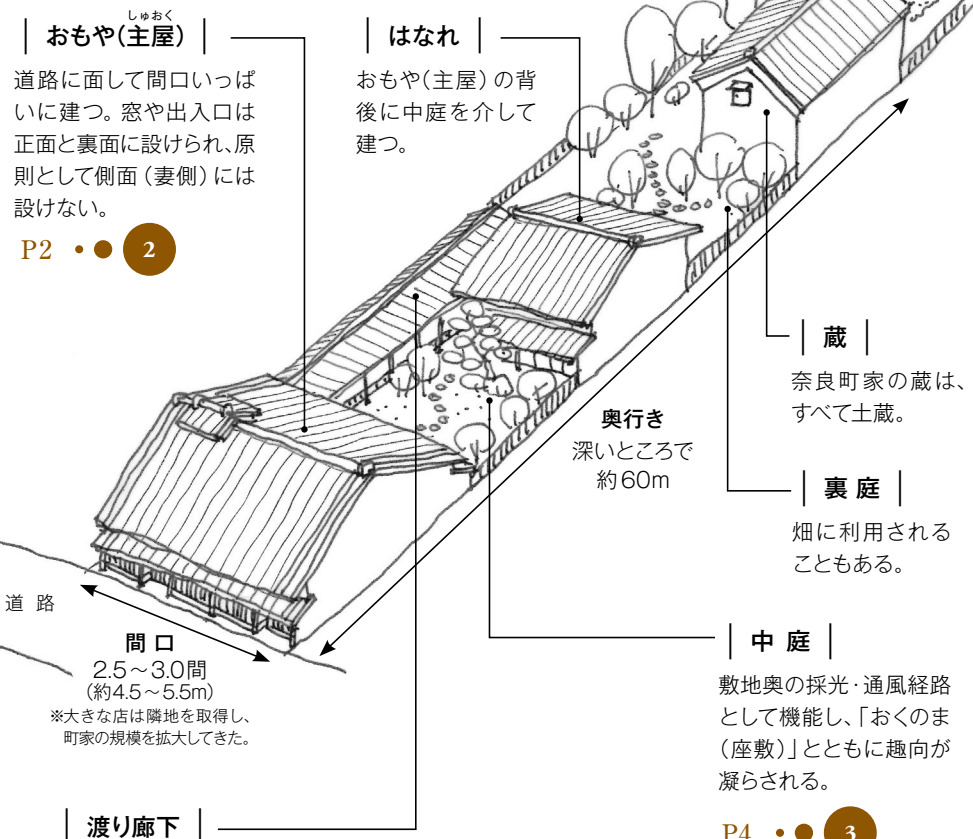
町家は、都市の限られた土地で
多くの人が快適に暮らすための、
工夫が詰まった住まいの形式です。
奈良町には、長い歴史の中で
合理的で優れた
「奈良町家」が形成され、
暮らしとともに継承されてきました。
その様式と知恵をご紹介します。

- | | | |
|---|------------|------|
| 1 | 奈良町家の構成 | P.1 |
| 2 | 奈良町家の表構え | P.5 |
| 3 | 奈良町家の構法 | P.8 |
| 4 | 奈良町の歴史と敷地割 | P.10 |
| 5 | 代表的な奈良町家 | P.11 |

1 奈良町家の構成

1 敷地内の建物配置

奈良町家は、間口が狭く奥行きが深い敷地を有効に利用し、良好な住環境を維持できるように建物が配置されています。近世以来、商業・手工業・旅館業など様々な業種に活用されてきた奈良町家には、共通した特徴があります。



渡り廊下

「おもや(主屋)」と「はなれ」をつなぎ、中庭に面して、南北に長い敷地では東側に、東西に長い敷地では南側に建つ。便所などの水回りが設けられる^{*}。中庭と反対側には、おもや(主屋)の通り庭から裏(庭)に続く通路がある。

^{*}臭いや湿気を屋外に直接排出できるため、居室に及ぼす影響が少なく済む。庶民の町家に風呂が設けられるようになったのは昭和以降といわれている。

P4 ●● 3

^{*}敷地割によって構成が異なります。

2

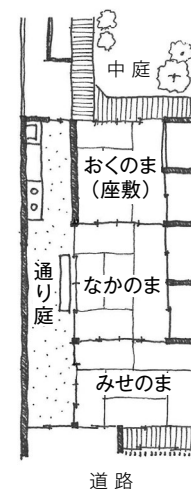
おもや(主屋)

道路に面して建つおもや(主屋)は、敷地形状に制約がある中、間取りを工夫することによって必要な住空間を確保しています。

1 基本なおもや(主屋)の間取り

通り庭に沿って居室部が1列に3~4室並び、敷地の間口が広がると2列(まれに3列)となります。1列3室型の場合、道路から奥に向かって「みせのま」「なかのま」「おくのま」と呼ばれます。

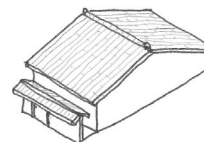
通り庭と居室部は、「おくのま」が土壁で仕切られている以外は建具で仕切られています。



2 おもや(主屋)のタイプ

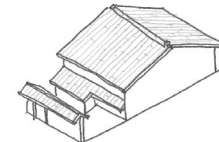
奈良町家のおもや(主屋)の多くは、左ページ図のように道路に直接面していますが、その他にも様々なタイプがあります。

まえべいづくり 前塀造



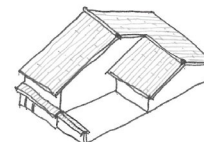
道路に面して塀を設ける。

まえにわづくり 前庭造



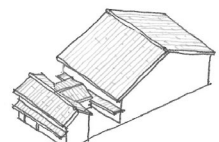
道路に面して塀と前庭を設ける。

おちむねづくり 落棟造



通り庭に沿って部屋が2列に並ぶ場合には、通り庭から遠い部分を落棟とし、座敷・茶室・仏間などを増設する。

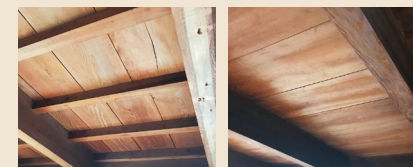
おもてやづくり 表屋造



道路とおもや(主屋)の間に表屋を設けるのが基本。配置や両棟間の接続の有無などによって様々な形式がある。

天井 様式

「みせのま」「なかのま」は2階の床組を現した「根太天井」又は「大引天井」となっています。「おくのま」は2階の床組を隠した天井とすることが多く、その高さを確保するために、上部の床を上げる場合もあります。



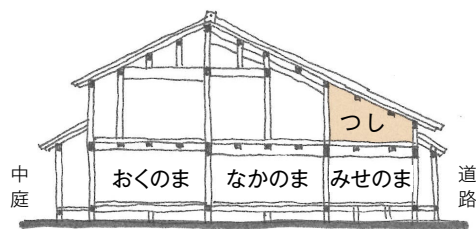
根太天井

大引天井

3 つし

道路に面し、高さを低く抑えた2階部分*のことで、奈良町では比較的多く見られます。主に物置として使用されていました。棟の位置を建物中央から後方にすることで、二階に座敷を設ける場合もあります。

*つしの高さを確保するために、「みせのま」上部の床を低くする場合もある。



4 通り庭

おもや(主屋)を道路から裏まで貫く土間空間を「通り庭」と呼びます。通り庭は単に敷地の奥へ行くための通路としての役割だけではなく、屋内でありながら、屋外のような使い方ができる、伝統的な住宅によく見られる空間です。

複数の機能を兼ねた空間

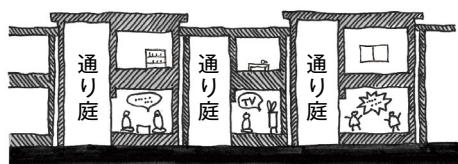
通り庭は、道路に面する部分が玄関の役割を果たす一方、奥はかまどを備えた炊事場となっています*。また、庭の畑仕事や植木の剪定、奥の建物の修繕などの際には、道路とおもや(主屋)の裏との間を大きな荷物を持って土足のままで行き来することができます。

*通り庭は、収納棚が置かれたり、居室との段差を活かすなどして空間が使い分けられていた。

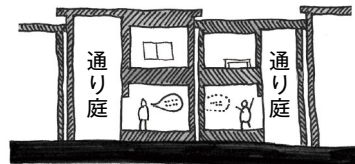


通り庭の配置

通り庭は、南北に長い敷地では東側に、東西に長い敷地では南側に配置されています。奈良町家は密集して建ち並ぶため、それぞれの家が通り庭を同じ側に配置することで、居室の物音が隣戸の居室へ直接的に伝わることを防ぎ、互いに良好な住環境を守っています。



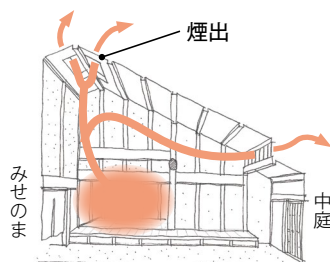
通り庭をはさむと物音が隣家に、直接伝わらない。



通り庭をはさまないと、音はつつぬけ。

吹抜と煙出・高窓

通り庭の上部は、「みせのま」に面する部分を除いて小屋裏まで吹抜となっています。吹抜上部には、炊事場の煙を屋外に排出するための「煙出」や「高窓」があり、建物全体の通風経路の確保にも役立っています。

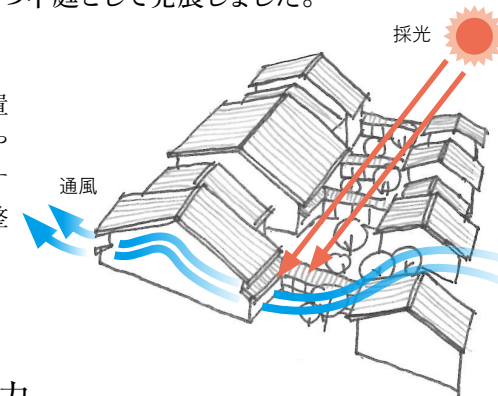


3 中庭

- 間口が狭く奥行きの深い奈良町家にとって、住まいに光と風をもたらす中庭の存在はとても大切です。この空間が町衆の生活や文化に育まれ、やがて奈良町独特の趣を持つ中庭として発展しました。

1 中庭の配置と機能

それぞれの奈良町家が中庭を同じ位置に配置することによって、敷地奥の採光や通風経路を確保しています。中庭に面する部屋は、その心地よさから座敷として整備されるようになりました。



2 奈良町で育まれた中庭の魅力

礎石…中庭の飛び石や沓脱石に寺院の礎石をよく見かけます。興福寺や元興寺の境内地や寺領から奈良町が発展した歴史がしのべれます。

茶の湯…室町時代中期の茶人・村田珠光*ゆかりの奈良は、近世を通じて町人の間で茶の湯が盛んでした。この影響は、飛び石を配した中庭や渡り廊下の数寄屋風の造りなどに表れています。

*「わび茶の祖」といわれている。

灯籠…近世後期～近代、経済力のある家では、社寺にあるような大きな灯籠を配することが流行したといわれています。

井戸…隣地を取得して敷地が大きくなった際などに、使われなくなった井戸が埋められることなく庭のしつらえとして残されました。奈良町の敷地割の変遷を感じます。



VOICE

中庭が住みやすさにつながる ～奈良町家で暮らす人の声～

道路に面して建っているので、車や人の気配が気になって道路側の窓はあまり開けません。その代わりに中庭側の窓は人目を気にせず全開にして、四季の移り変わりを感じながら、静かな雰囲気を楽しんでいます。建物に囲まれた中庭は風の流れがありますし、前庭や裏庭に比べて冬の気温が少し高いようです。建替えの時には中庭をなくして前庭を作ることが多いようですが、住みやすさを考えるなら、中庭を残すことは重要だと思います。

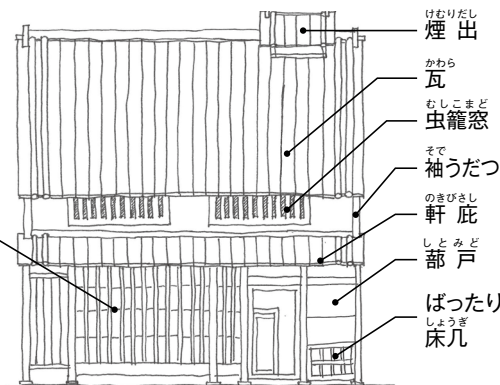
奈良町家の表構え

奈良町家の表構え

1

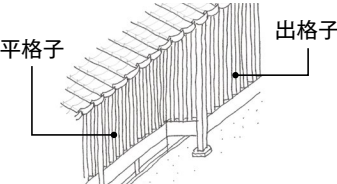
格子

奈良町家の表構えの意匠の中心は格子です。格子は防犯性に優れ、昼間は建物の外から中が見えにくく、中からは外が良く見えます。人通りからプライバシーを程よく保ちながら、屋内に光・風・音を通す機能があります。



1 格子の分類

格子は、「平格子」と「出格子」の大きく2つに分類され、それぞれに「台格子」と「建具格子」があります。奈良町家には、「出格子」の「台格子」が多く見られます。

平格子	出格子	台格子	建具格子
壁と同一面上で柱間に取り付けられた格子。	壁面から外側へ張り出した、出窓式に取り付けられた格子。		
		格子台(框)と梁・桁などに縦子が直接組み込まれる。格子は着脱できない。	四周を枠で囲んだ中に縦子が組み込まれる。台格子より歴史は浅く、格子は枠と一緒に着脱できる。

2 奈良町家の格子

奈良町家には、様々な意匠の格子があります。

基本的な意匠		
太格子	細格子	子持格子
		
太い角材を貫でつないだ格子。その店の職業を表して「酒屋格子」「米屋格子」とも呼ばれる。	工具の発達により誕生した、細い角材の格子。その店の職業を表して「糸屋格子」「仕舞屋格子」とも呼ばれる。	幅が広くて上から下まで通った縦子を「親」、細くて短い縦子を「子」に見立て、それらを組み合わせて並べた格子。「親子格子」とも呼ばれる。

VOICE

格子の形や意匠にこだわりたい ～奈良町家で暮らす人の声～

他の伝統的な地域を訪れたとき、最初に感じるのは「格子」の雰囲気の違いです。格子は町の印象の大切な要素だと思います。ですから、奈良町で新たに格子を作る時には、奈良町家の格子の形式や意匠を踏襲してもらえると嬉しいです。

2

屋根と軒庇

道路と平行する深い軒によって強調される町家の水平ラインは互いに重なり合いながら、奈良町の町並みの連続性と統一感を生み出しています。風雨から家を守りながら快適に暮らすために、軒庇は欠かすことができません。

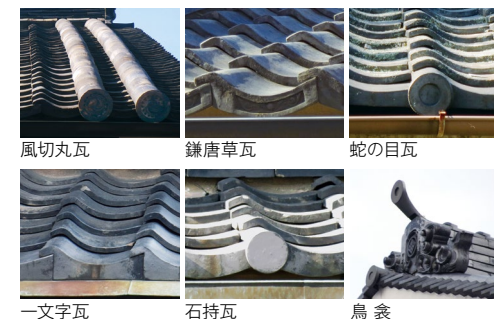
1 屋根の形状

奈良町家のおもや(主屋)はすべて平入りです。また、ほとんどが棧瓦葺きの切妻屋根で、その勾配は4.5～5寸程度とほぼ一定です。隣り合う2軒の間では、背の高い方の町家が屋根を差し掛け、建物と建物の間に雨水が落ちてこないようにしています。



2 瓦の意匠

切妻屋根の両端には風切丸瓦が2列に平軸瓦が葺かれています。中央にも1列葺かれている町家もあります。軒先瓦はかつて鎌唐草瓦が主流でしたが、やがて蛇の目瓦、一文字瓦、石持瓦が登場するようになりました。古い町家では、鬼瓦の上に鳥袈が据えられていることがあります。

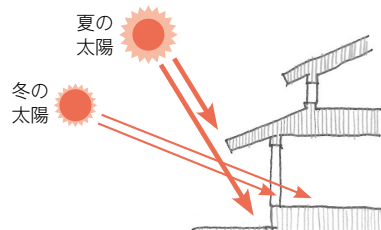


3 深い軒庇

奈良町家は出格子を有する建物が多いこともあり、出桁^{でげた}を設けて軒を深くしているのが特徴です。一般的には垂木^{たるき}の上に野地板^{のじいた}を敷きますが、垂木を省略し厚板を直接差し出す「厚板野地^{あついたのじ}」も見られます。



深い軒は、夏は室内への日差しを侵入を防ぎ、冬は室内に日差しを取り込むなど、気候に合わせた快適な室内環境を保つことができるほか、外壁に雨を当たりにくくし、建物を長持ちさせる効果もあります。



4 軒下の備え

名栗^{なぐり}¹が施された「駒寄せ^{こまよ}」と呼ばれる柵や、出格子の下部に埋められた「鹿よけ^{しかよけ}」と呼ばれる鋭い石には、人や動物などから建物を守る役割があります。「ぱったり床几^{しやうぎ}」は折畳み式の縁台で、蔀戸^{しよみど}²とセットで設けられます。必要な時に広げて商品を並べたり、腰掛けることができます。

※1 角材や板材などの表面に、刃物で独特の削り痕を残す、伝統的な加工技術。

※2 上部に蝶番をつけ、外または内側に水平に釣り上げて開ける戸。柱の溝にはめ込む戸を含む場合もある。



駒寄せ



鹿よけ



ぱったり床几

3

虫籠窓

正面や裏面の「つし」の壁に、採光と通風のために設けられた開口部のことです。漆喰が塗り込められていて、町家ごとにさまざまなデザインを見ることができます。



4

袖うだつ

2階の端部に設けられた漆喰塗りの袖壁のことで、模様が描かれているものもあります。奈良町家は隣家と密接して建っているため、火災の延焼を防ぐために設けられたといわれていますが、装飾の意味合いが強いと考えられています。



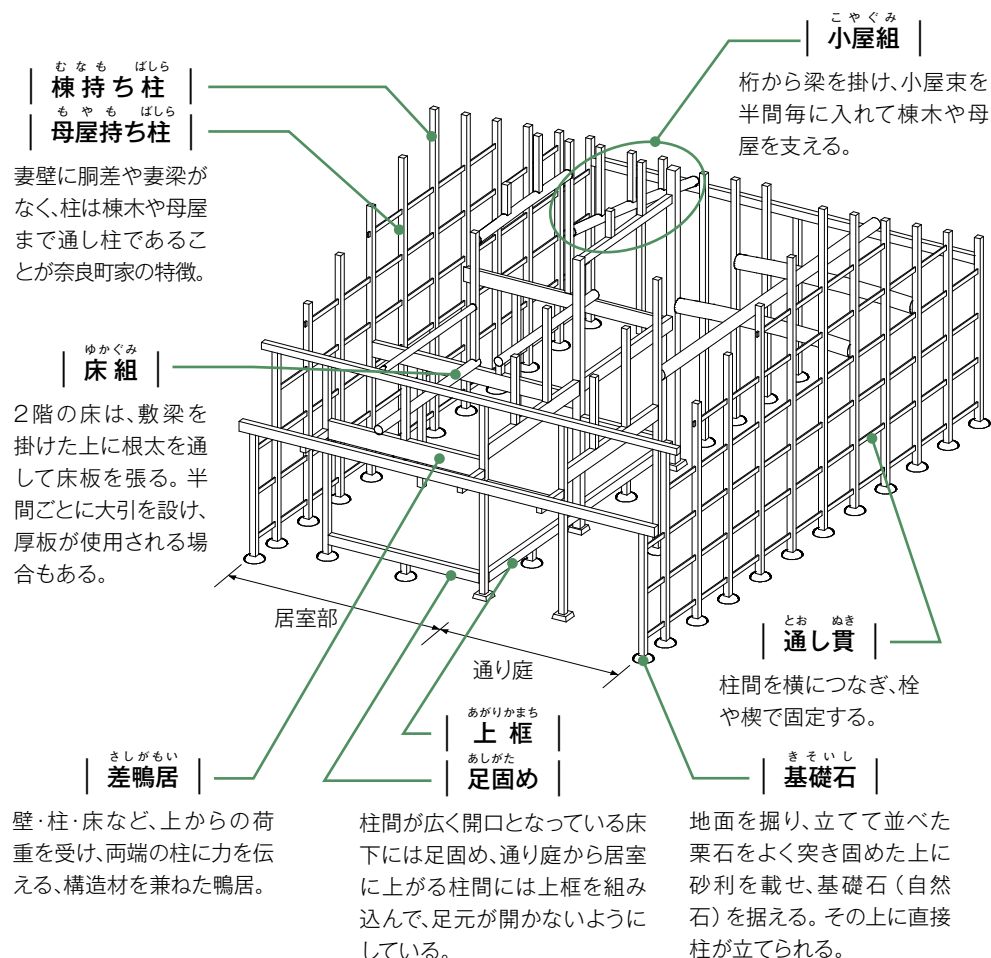
奈良町家の構法

1

伝統構法の軸組

奈良町家の構法である「伝統構法」は、木の特性を活かした木組の構造です。柱は基礎石などの上に載り、接合部は栓や楔で固定されます。それぞれの部材が金物等で固定されない伝統構法は、地震や風による外力を部材のしなりやめり込みなどの変形によって力を逃がす構法です。

下図は間口三間半、奥行五間、正面に半間の庇が付いた奈良町家の軸組です。



◎ 奈良町家には建物の中心に「大黒柱」と呼ばれるような太い柱はありません。

つぎて しくち
継手・仕口、大工の技術

木造建築の構造体である梁や柱などを組むことを「木組み」といい、木組みの部材の接合部を継手・仕口といいます。

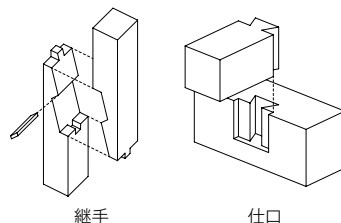
継手・仕口には用途に応じて様々な形状があり、その部材加工には大工の熟練した技能が欠かせません。また、接合部を固定する栓や楔を外すと、部材を傷めずに解体し、移設して組み立て直すことができるので、サステナビリティやリサイクルという点でも優れています。



1 継手・仕口

継手とは「柱と柱」や「梁と梁」など、部材を直線的に接合する際の接合部のことをいいます。

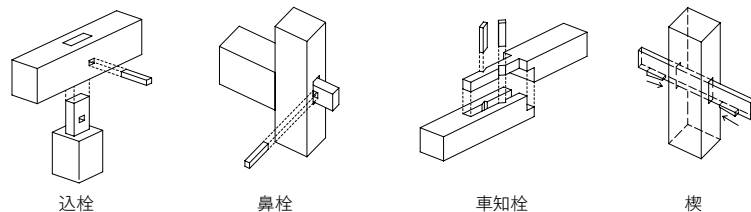
仕口とは「柱と梁」や「桁と梁」など、長さの向きが異なる部材を接合する際の接合部のことをいいます。



2 部材を固定する栓や楔

接合部を固定する栓や楔は、接合方法に応じて使い分けられます。

栓には「込栓」「鼻栓」「車知栓」など、接合部の形状や固定方法によっていくつかの種類があります。通し貫を固定する楔は、一般的に貫の上部に打ち込みますが、奈良町家では貫の下部に打ち込みます。



VOICE

長年にわたり培われ、受け継がれてきた技術
～町家に関わる大工の想い～

継手・仕口は部材を刻んで加工するため、建物構造上の弱点になりかねません。そこで大工は、建物の構造（軸組）が長年の荷重や振動に建物が耐えられるよう、「木材の性質と特徴」「架構のバランス」「軸組材の組む順序」などを考えて、継手・仕口の加工を行います。

継手や仕口にはそれぞれ加工の手順があり、使用する道具も様々です。そのため、日頃から道具の使い方の習熟に努め、手入れを行うことが欠かせません。これらは先人が思いを込めて培い、受け継いできた伝統技術なのです。

奈良町の歴史と敷地割

奈良町は、奈良時代（710～794）に造営された平城京の東端部（外京）にあたります。平安時代以降もこの地に残った大寺院・神社を中心に盛衰を経て、江戸時代には産業の街[※]として「南都」と呼ばれる奈良町を形成しました。現在も、敷地割に平城京の条坊制の区画の痕跡をとどめています。

※奈良晒、酒、墨、一刀彫、旅籠など

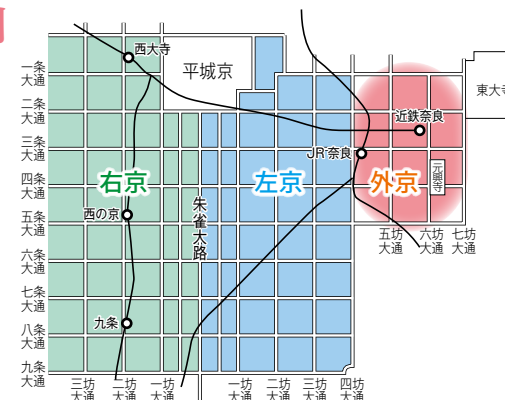
1

平城京の条坊制

東西方向の通りを指し、北から一条二条と数え、九条まであるとされています。

南北方向の通りを指し、朱雀大路を中心に一坊二坊と数え、左京・右京ともに四坊まであるとされています。

左京の一部が東に張り出した部分を指します。

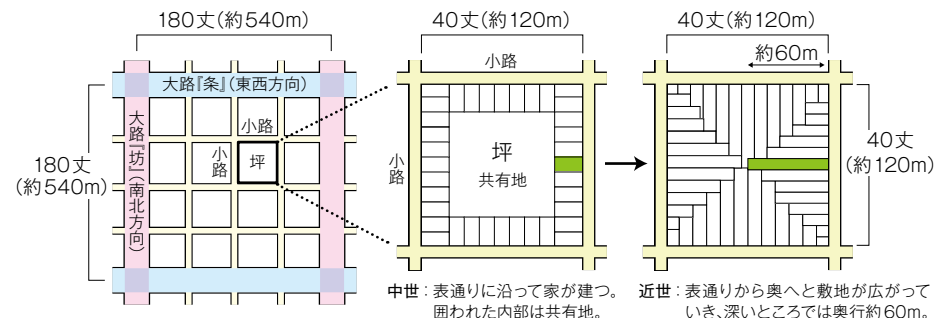


2

条坊制の区画とその変化

条坊制の区画は、大路で区画された「坊」と、坊の中を縦横に3本ずつの小路で区画された「坪」で構成されています。

江戸時代の初期から中期にかけて、それぞれの敷地は条坊制の痕跡を留める街区の中で、限りある表通りの間口を分かち合い、次第に奥へと広がっていきます。その結果、間口の狭さに対して奥行きが深い、いわゆる「鰻の寝床」と呼ばれる独特の敷地割が生まれました。



◎奈良町では、不整形な区画や曲がりくねった細い道などを見かけます。これは寺の境内地が徐々に町家の敷地となるなど、自然発生的に敷地割の再編が進んだためといわれています。

代表的な奈良町家

地域(ならまち・きたまち・高畑)別、文化財の種類別、
建築年代順、五十音順で掲載しています。

(平成30年1月現在)

1		藤岡家住宅	ならまち/元興寺町 重要文化財 年代/江戸(18世紀後半)
		大戸口に突上げ戸、両脇に蔀とぱったり床几を構え、これらを開放して商売をしていました。北側には丸太格子とくぐり戸付きの塀を構え、奥に客座敷が設けられています。建築年代が古く、商家の特徴がよく残っているため、奈良町家の典型として貴重な建物のひとつです。	
2		細川家住宅	ならまち/南城戸町 奈良県指定有形文化財 年代/江戸(19世紀初期)
		江戸時代から昭和35年頃まで和ろうそくを製造販売していました。突上げ戸・蔀・ぱったり床几からなる商家の表構えですが、建築年代が古い割には建ちがやや高くなっています。北側の落棟部には丸太格子が入っています。奈良の町家の典型として貴重な建物のひとつです。	
3		森家住宅	ならまち/南城戸町 奈良市指定文化財 年代/明治20年代頃
		南隣に所在する細川家の隠居所として建てられたといわれています。表構えは大戸口にくぐり戸付きの片開き格子戸を入れ、居室前面には丸太格子が建て込まれています。庇上の壁は低くなっています。奈良町におけるやや小規模な町家の好例といえます。	
4		木奥家住宅	ならまち/芝新屋町 登録有形文化財 年代/寛政4年、文政3年・安政5年・明治期増築
		表屋造の町家です。棟札から、建築年代や増築年代が判明しており、建物の変遷の過程がわかっています。出格子を構え、虫籠窓を設けるなど、奈良町の伝統的な町家の姿をよく留めています。	
5		田村青芳園茶舗	ならまち/勝南院町 登録有形文化財 年代/江戸後期
		店舗兼主屋は宿屋として建てられました。江戸時代の町家としては珍しく総2階建てで、庇上部に虫籠窓、両端に袖うだつが設けられています。戦前から戦後にかけて1階の表構えが改修されていますが、通り土間を維持するなど、現在も伝統的な町家の姿をよく留めています。	

6		正木家住宅 主屋等	ならまち/毘沙門町 登録有形文化財 年代/江戸後期
		つし2階建の典型的な奈良町家です。つしには虫籠窓や袖うだつがみられます。1階の表構えは近年になって整備されたもので、伝統的な奈良町家にならい、丸太格子やぱったり床几が設けられています。落棟部分の正面には坪庭があり、前面には高塀が建てられています。	
7		松山家住宅 主屋北棟等	ならまち/西新屋町 登録有形文化財 年代/主屋南棟：江戸後期、 主屋北棟：文政12年、 渡廊下・麦蔵・米蔵：昭和前期
		主屋南棟と北棟が雁行して建ち、独特の景観を形成しています。南棟の軒高の低さや、2階に居室がないことなどは、北棟より古い建物であることを示しています。北棟は正面に丸太格子を構え、庇上に虫籠窓、両端に袖うだつが設けられています。北棟は棟札から文政12年(1829)の建築と判明しているため、奈良町家の基準作といえます。	
8		坂本家住宅	ならまち/勝南院町 登録有形文化財 年代/江戸末期
		主屋は嘉永7年(安政元年、1854)の地震の後に建てられたとされ、敷地南側には地震への備えとして1間の空地が設けられています。つしの建ちの低いことが特徴で、建築当初はぱったり床几や蔀、丸太格子を設けた表構えでしたが、戦後、現在の表構えに改修されました。	
9		吉田蚊帳店舗、 吉田家住宅 主屋	ならまち/元興寺町 登録有形文化財 年代/店舗：江戸末期、主屋：昭和7年
		昭和中期頃に店舗を土蔵風に整備し、主屋土間部は表屋造に改造されました。店舗は当初、南が土間で北が部屋でした。主屋外観は、糸屋格子、低く長いつしの虫籠窓、軒先の一文字瓦、名栗材の柵などで構成されています。近代的で洗練され、整然として美しい町家です。	
10		ぜいたく豆本舗本店 店舗等	ならまち/角振町 登録有形文化財 年代/明治初期(旧応接室は昭和26年頃)
		主屋は明治時代の道路拡幅工事の際に前面が一間ほど切り取られました。つしの外観を黒漆喰仕上げの塗込めとし、虫籠窓を3箇所設け、両端に袖うだつを備えた風格のあるその佇まいは、町家が軒を連ねていたかつての三条通りの面影を伝えています。	
11		岡田家住宅 主屋等	ならまち/鶴町 登録有形文化財 年代/主屋：明治前期、 離れ及び渡廊下：大正期、 蔵：昭和5年
		主屋は当家が幕末から明治時代にかけて産婆(助産師)を生業としていた頃に建てられました。建築年の古い町家らしい、軒高の低さが特徴です。当初は正面にぱったり床几があり、格子戸は全て開放できたことが痕跡などからわかります。	

12		中川家住宅 主屋等 ならまち/今辻子町 登録有形文化財 年代/主屋・渡廊下・蔵：大正4年、 離れ：昭和前期、 煉瓦塀：大正4年頃 南側の通り土間の屋根を落棟とし、北側の“みせ”前面に平格子と出格子を構えるほか、つしに虫籠窓や袖うだつを設け、軒は出桁で受けています。規模の大きな、大正期に建てられた町家は材料や造りが上質で、端正な意匠を有しています。
13		奈良町にぎわいの家 ならまち/中新屋町 登録有形文化財 年代/主屋：大正6年、 離れ：大正2年、 待合：大正6年頃、蔵：江戸後期 奈良町の中心部に建つ、つし2階の町家です。表屋造で、入り口を突上げ戸とし、平格子と出格子を構え、つしには格子窓が建て込まれています。北側をすべて庭とし、背面側の2階部分は棟方向の異なる入母屋造にするなど、一般の町家にはない自由な発想で建てられています。
14		紀寺の家 縁側の町家 ならまち/紀寺町 登録有形文化財 年代/大正末期 袋小路奥に建ち、正面にガラス戸や出格子窓を構え、建ちの低い町家風の外観になっています。底を支える持送りには既製品の金物を使用され、建築された時代をよく示しています。現在は1棟貸しの宿として活用されています。
15		小川又兵衛商店 店舗等 ならまち/鵠町 登録有形文化財 年代/大正15年 酒造業・酒類卸業を営んでいた小川又兵衛によって建てられた町家で、店舗兼主屋は表屋造となっています。建築当時に前面道路の拡幅計画があったため、敷地前面から3mほど奥に建てられました。近代の商家らしく、通り土間から敷地奥までトロッコレールが敷かれています。
16		古梅園 店舗等 ならまち/椿井町 登録有形文化財 年代/大正～昭和初期 16世紀末創業の老舗製墨店です。正面を表屋造とし、南の事務所、奥の工場等、多数の建物で伝統の墨づくりを継承しています。黒漆喰の重厚・長大な外観で、中央を大戸口とし、北の店舗は開口を広くとり、南の事務室には格子が建て込まれています。大規模で質が高い町家です。
17		藤岡家住宅 ならまち/紀寺町 登録有形文化財 年代/昭和3年 通りに面するつし2階の農家住宅で、内部には広い土間があり、居室はほぼ田の字型の農家の間取りですが、正面に各種の格子を付け、屋根を瓦葺とするなど、町家の外観などの要素を取り入れた、農家建築の近代化を伝える住宅です。

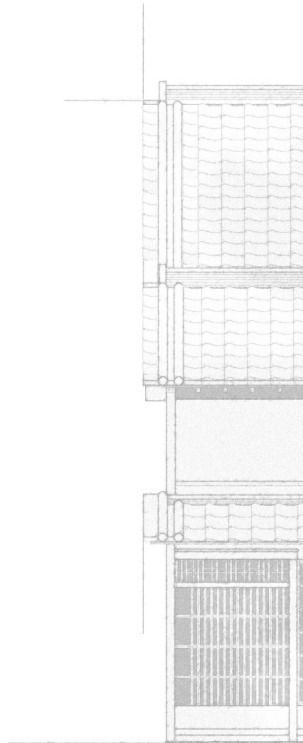
18		近田家住宅 主屋等 ならまち/鵠町 登録有形文化財 年代/昭和8年 建築当時、前面道路の拡幅計画があったため、通りから後退して建てられました。居室を2階建とし、窓にガラス障子や棒格子を入れた外観は、昭和初期の町家の姿をよく伝えています。内部についても、2階に中廊下を設けるなど、近代的な要素がみられます。
19		吉岡家住宅 主屋等 ならまち/北京終町 登録有形文化財 年代/昭和10年 建ちの高いつしが特徴の町家です。1階に格子戸や出格子を構え、つしの中央には大振りな虫籠窓が設けられているほか、軒は出桁で受けています。現在の外壁は黒色砂壁で腰壁を縦板張りとし、虫籠窓は白漆喰塗ですが、古写真によると当初は虫籠窓も含めて黒漆喰塗であったようです。
20		山崎家住宅 主屋等 きたまち/奈良阪町 登録有形文化財 年代/江戸(文久2年) 奈良町最北端にある元青果問屋です。現在通りから後退して建つが、当初は通りに面していました。正面に大きな開口をとり、上手に丸太格子、つしに虫籠窓や袖うだつが設けられています。物資の集散地として賑わった地域の歴史を伝える。
21		井田家住宅 きたまち/法蓮町 登録有形文化財 年代/昭和6年 出格子や格子戸、袖うだつを設ける外観や、短冊形の敷地に隣地と接して建つ点など、町家の外観などの要素を取り入れた農家住宅です。広い土間に煙返しの大梁を架ける点など、奈良の農家建築の特徴をもっています。
22		青田家住宅 高畑/高畑町 奈良市指定文化財 年代/江戸(19世紀前期) 間口9間、奥行15間の広大な敷地に、主屋、落棟座敷、土蔵3棟などが建ち、全体の屋敷構えもよく保存されています。主屋の1階に丸太格子や出格子を構え、つしには木瓜型の虫籠窓がみられます。
23		好田家住宅 高畑/高畑町 奈良市指定文化財 年代/江戸(19世紀前期) 上手に落棟座敷が設けられていますが、表構えは主体部・落棟部とも庇桁に丸太格子を建て込んでおり、奈良町家独特の外観となっています。落棟部は19世紀中頃の建築であることなど、年代がほぼ明らかであるため、町家の編年の基準となっています。

各町家の所在地は、別冊の『奈良町家めぐりマップ』をご覧ください。

長年、培われてきた奈良町家の様式と知恵。そこには、
冊状の細長い敷地で、プライバシーを守りながら自然と
ともに快適に暮らす工夫が多くつまっています。

奈良町家は、技術の進歩や社会の変化に合わせて変わ
りながらも伝統を守り、いまの奈良町の町並みを作ってき
ました。現在、保存や活用に課題を抱えていますが、その
魅力に惹かれて多くの人が奈良町を訪れています。それ
は現代の住まいづくりにも、多くのヒントを与えてくれるか
らではないでしょうか。

住む人、使う人はもちろん奈良町家に関わるすべてに
人にその魅力を知ってもらい、保存・活用、改修、建替え
の際には、奈良町家の様式と知恵が受け継がれることを
願います。



参考文献 『奈良市史(建築編)』

- 奈良市史編集審議会 編／奈良市 発行(1974年)
『保全的刷新－奈良三新屋の調査－』(トヨタ財団助成研究報告書)
歴史環境をめぐる研究会 著(1979年)
『現在に生かそう、伝統の町づくり－奈良三新屋の町並みを考える－』
歴史環境をめぐる研究会 著(1979年)
『ならまちぶらりガイド』
上野邦一 著／奈良市教育委員会 発行(1993年)
『ならまち今確かな時を見る』パネル展示資料
なら・町家研究会 発行(1994年～)
『和の住まいのすすめ』『今に生きる日本の住まいの知恵』編&『識者が語る日本の文化と家』編
和の住まい推進関係省庁連絡会議 発行(2013年)
『奈良町 町家デザインブック－奈良町で新築・リフォームをお考えのあなたに－』
公益社団法人 奈良まちづくりセンター 発行(2015年)

発行年月 平成30年2月

発行 奈良市伝統文化いきいき実行委員会
奈良町にぎわいの家管理共同体
(公益社団法人奈良まちづくりセンター、特定非営利活動法人さんが俵座、なら・町家研究会)
〒630-8333 奈良市中新屋町2-1
0742-20-1917 / 26-3476
<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>



文化庁

本事業は平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金(文化遺産総合活用推進事業)
の補助を受けて実施しています。